

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	70%	自校A B層の割合	70%
令和5年度の成果	自校A B層の割合	69.0%	自校A B層の割合	68.0%

目標達成に向けた取組

3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> 単元や一時間の授業の中で、学習内容を「見通す」、「振り返る」時間を設定し、児童が学びへの手応えや楽しさを掴めるような授業をデザインする。 	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の東京ベーシックドリルの診断シートに取り組む。これまでの結果も併せて、特に得点の低かった問題を中心に復習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 年3回のStudy weekの実施や、ミライシードなどの活用により、児童が自分の課題を把握して取り組む機会を設定する。 年3回の東京ベーシックドリルの診断シートの結果を個人面談で保護者と共有し、必要に応じて協力を呼びかける。
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> 児童のできていること、もう少しでできるようになることなどを個々に明確にし、意欲をもたせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> C層の児童は放課後補習事業者との連携を図り、既習事項の定着を図る。 D層の児童は、校内で担任が放課後補習をする日を設定し、反復練習により基礎的な内容の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容と取り組んだ時間を確認することで学習方法を客観的に捉えさせ、見通しをもって取り組めるよう、個別に声掛けをしていく。
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力学習状況調査「児童・生徒質問紙」における設問「国語・算数の授業の内容はよく分かりますか」への肯定的な回答が88%以上を達成しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 3学期の東京ベーシックドリルの算数診断シートにおける成績が5割を下回る単元を、全単元の3割以下にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力学習状況調査「児童・生徒質問紙」における設問「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。」1時間以上の回答が90%以上を達成しているか。